2017年3月期決算説明

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業

代表取締役社長

新妻　一彦

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

目　次

Ⅰ. 業績について

・2017年3月期業績概要

・2018年3月期業績予想

Ⅱ. 経営計画について

・長期ビジョン

・中期経営計画17-19

Ⅰ．業績について

2017年3月期業績概要

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

2017年3月期業績

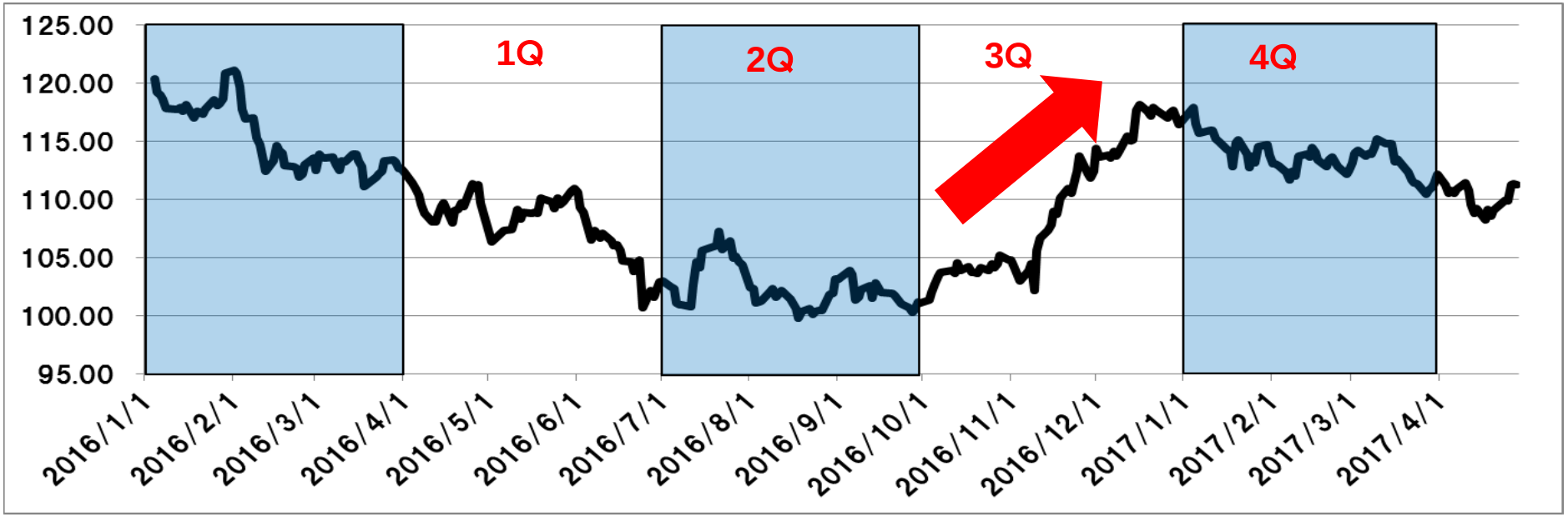
（百万円）

	2017年3月期	2016年3月期	増減	前期比
売上高	233,206	247,823	△14,616	△5.9%
営業利益	8,786	7,951	835	10.5%
経常利益	9,514	8,977	536	6.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	6,167	5,941	225	3.8%

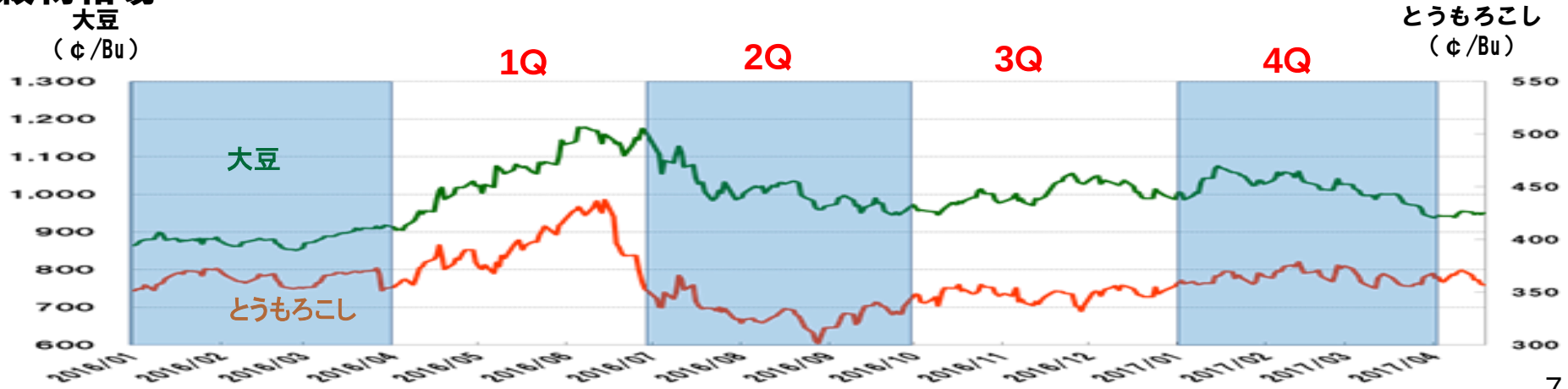
穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

穀物・為替相場

為替相場



穀物相場



穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

2017年3月期セグメント別業績①

（百万円）

	売上高				営業利益			
	2017年3月期	2016年3月期	増減	前期比	2017年3月期	2016年3月期	増減	前期比
製粉事業	65,481	67,000	△1,519	△2.3%	2,933	2,956	△22	△0.8%
油脂事業	55,397	59,601	△4,203	△7.1%	2,358	1,454	903	62.1%
糖質事業	32,647	35,085	△2,437	△6.9%	2,443	2,632	△189	△7.2%
家庭用食品事業	21,570	21,380	190	0.9%	240	△137	377	―
飼料事業	53,106	59,694	△6,588	△11.0%	624	481	142	29.7%
倉庫事業	2,722	2,762	△39	△1.4%	698	659	38	5.8%
不動産事業	1,966	1,978	△12	△0.6%	1,076	1,133	△57	△5.1%
その他	314	320	△6	△2.0%	68	59	8	15.0%
会社費用等					△1,655	△1,289	△366	―
合計	233,206	247,823	△14,616	△5.9%	8,786	7,951	835	10.5%

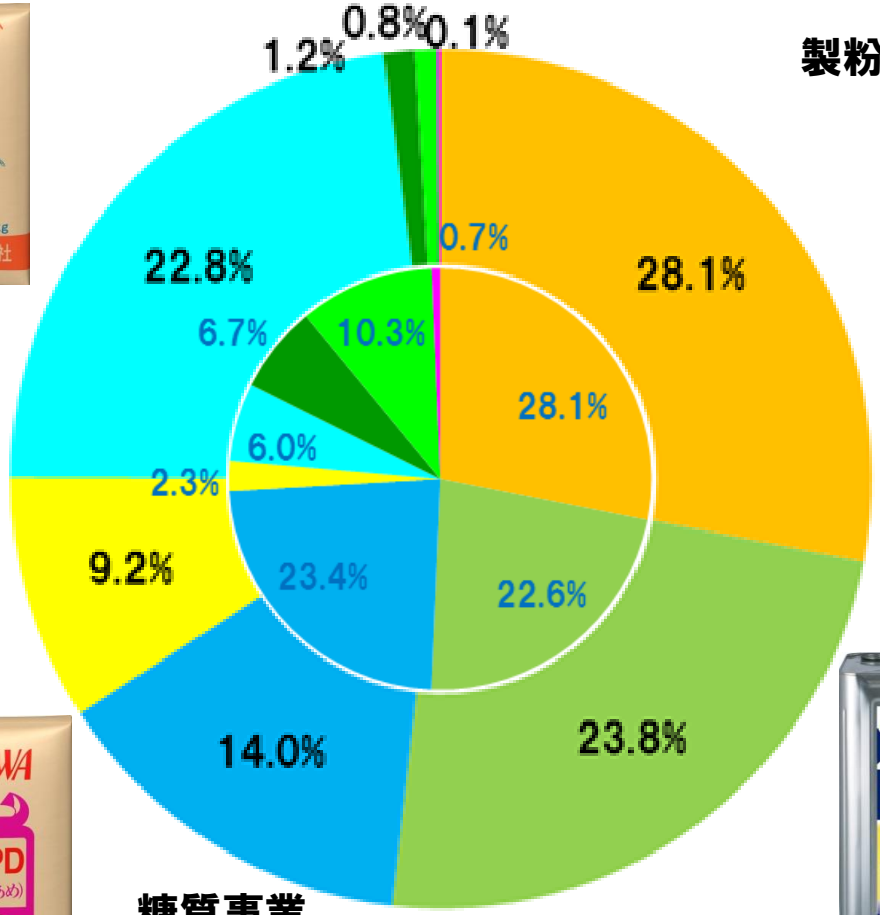
穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

2017年3月期セグメント別業績②

売上高、営業利益

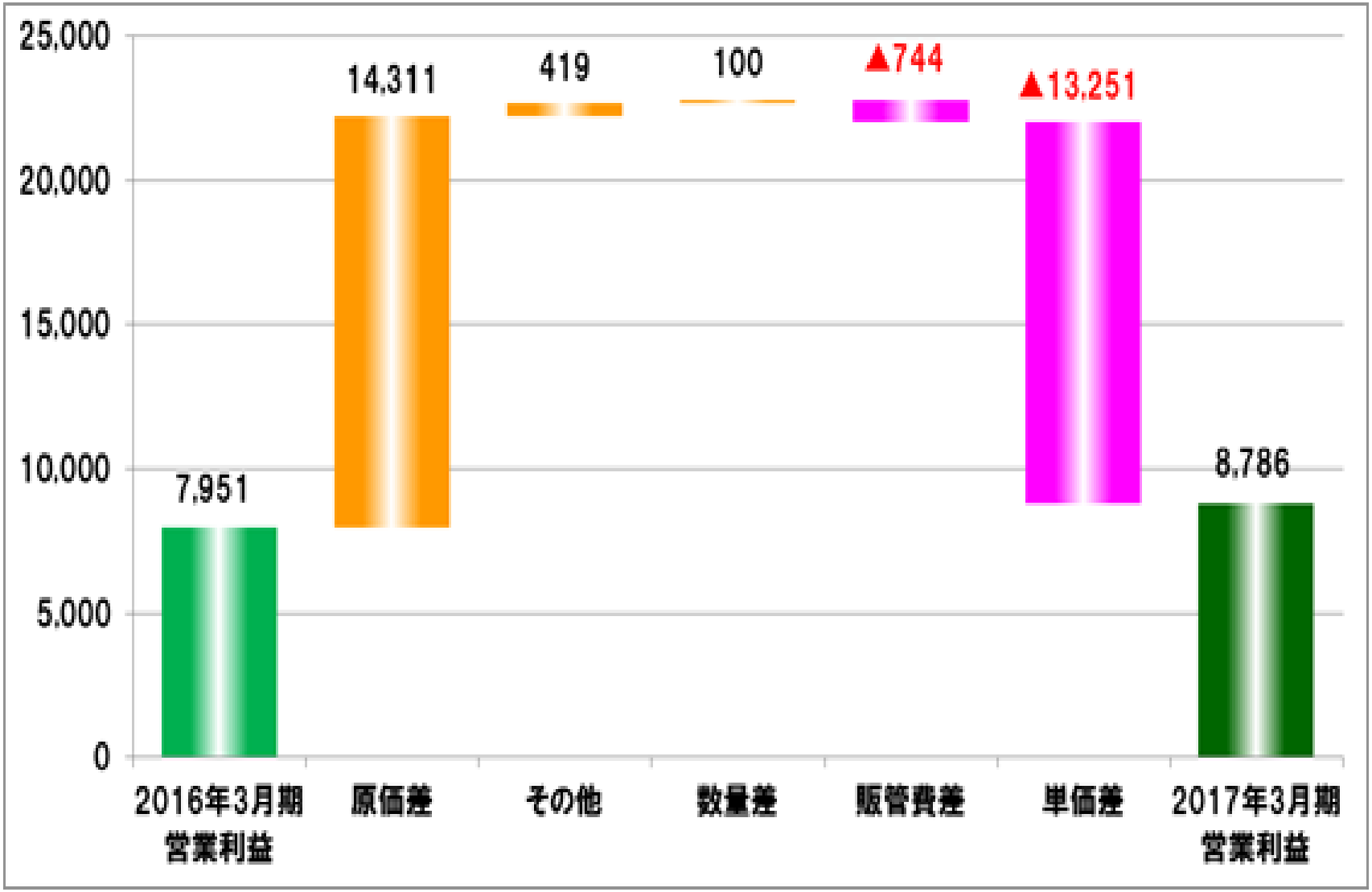
外円：売上高
内円：営業利益

※セグメント利益の調整額
355（百万円）は含まず



営業利益の増減要因

（百万円）



セグメント別業績（製粉事業）

1. 前期の施策

マーケット分析力を生かした「価値提案型営業」のさらなる強化

2. 良化ポイント

- パン用小麦粉の拡販により、販売数量は前期を上回る
- ふすまの販売数量も前期を上回る

3. 悪化ポイント

- 輸入小麦の政府売渡価格引き下げによる販売価格の改定を2回実施

セグメント別業績（油脂事業）

1. 前期の施策

油脂製品と食材製品のシナジー効果を生かし問題解決型の営業活動を強化

2. 良化ポイント

・業務用食用油及び業務用プレミックスの販売数量は前期を上回る

3. 悪化ポイント

・原料穀物相場の影響を受け販売価格が前期を下回る

セグメント別業績（糖質事業）

1. 前期の施策

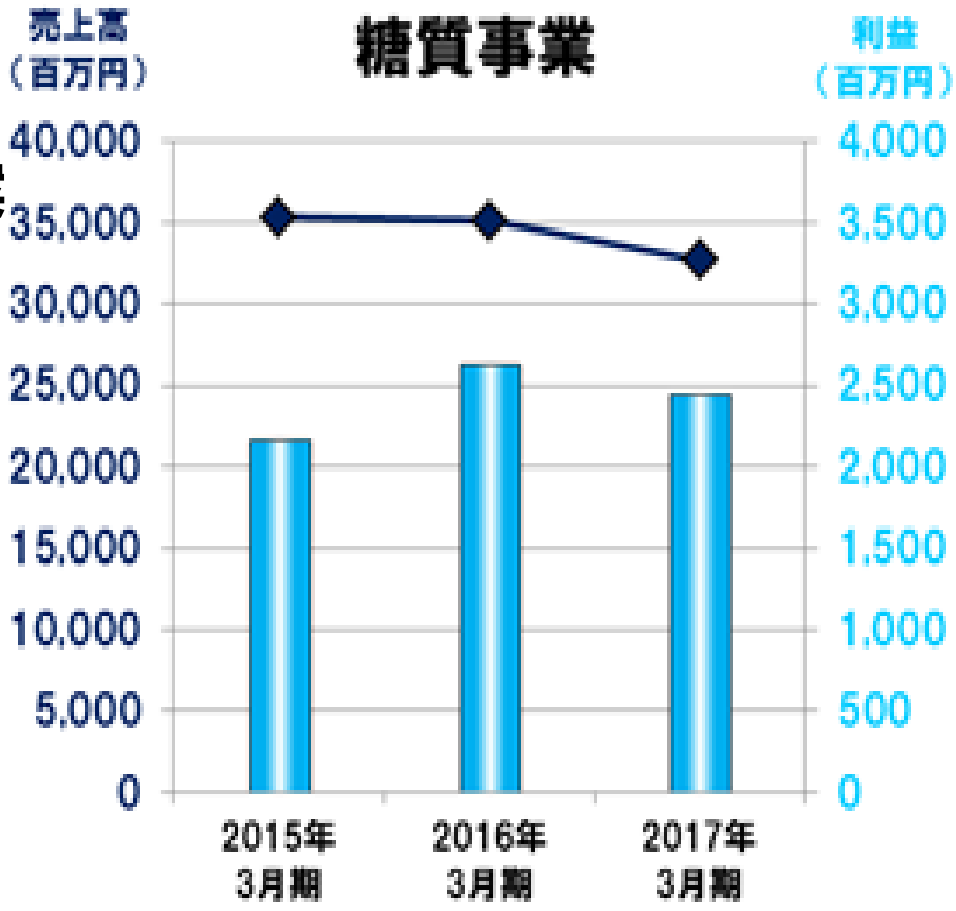
当社子会社である敷島スターチ㈱との販売統合効果を生かした拡販の継続

2. 良化ポイント

- 複合系シナジーを生かした提案型営業によりでん粉類の販売数量は前期を上回る
- 機能性製品の販売数量増

3. 悪化ポイント

- 大手顧客の売り上げ不振により糖化製品の販売数量は前期を下回る
- 原料穀物相場の影響により販売価格が前期を下回る

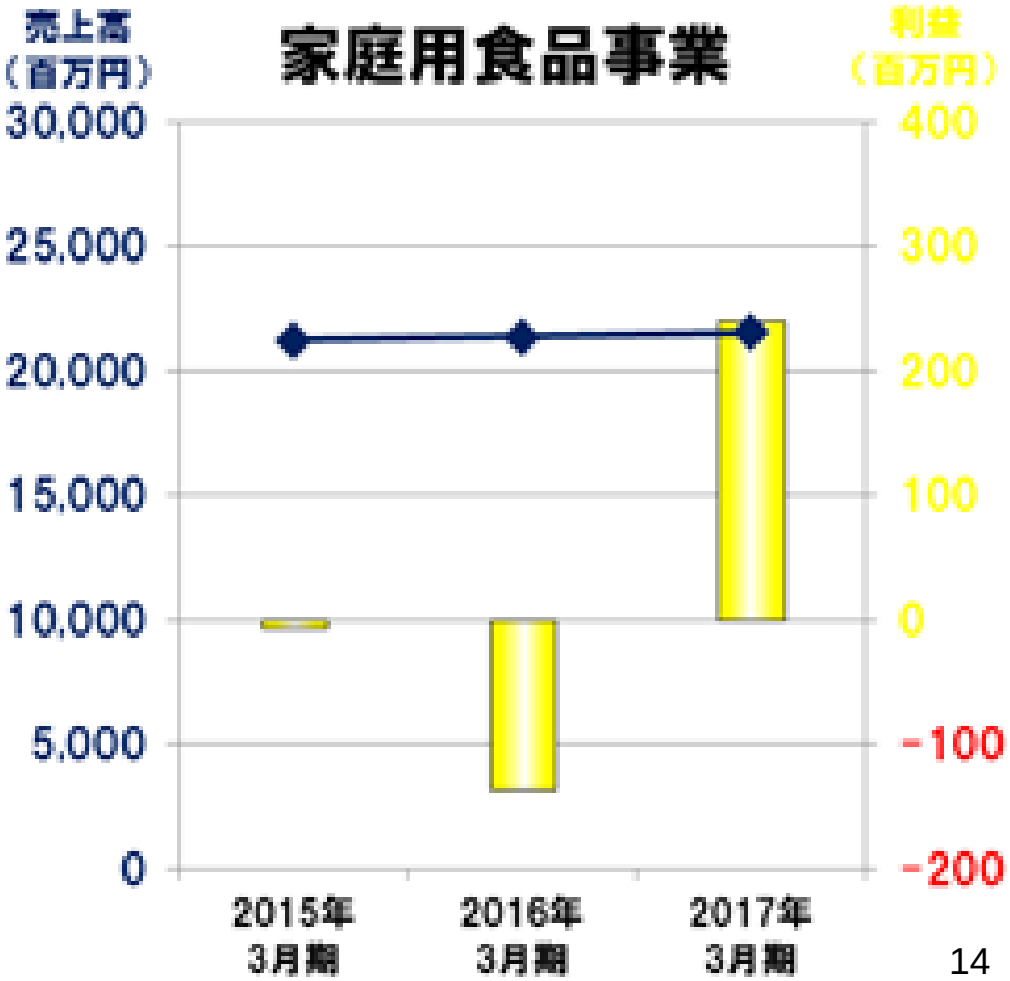


セグメント別業績（家庭用食品事業）

1. 前期の施策
他事業と連携した組織営業の推進

2. 良化ポイント
- キャノーラ油の伸長により、食用油の販売数量は前期を大きく上回る

3. 悪化ポイント
- プレミックス類の販売数量が若干前期を下回る
- 原料穀物価格の影響を受け食用油及びプレミックス類の販売価格が前期を下回る



セグメント別業績（飼料事業）

1．前期の施策

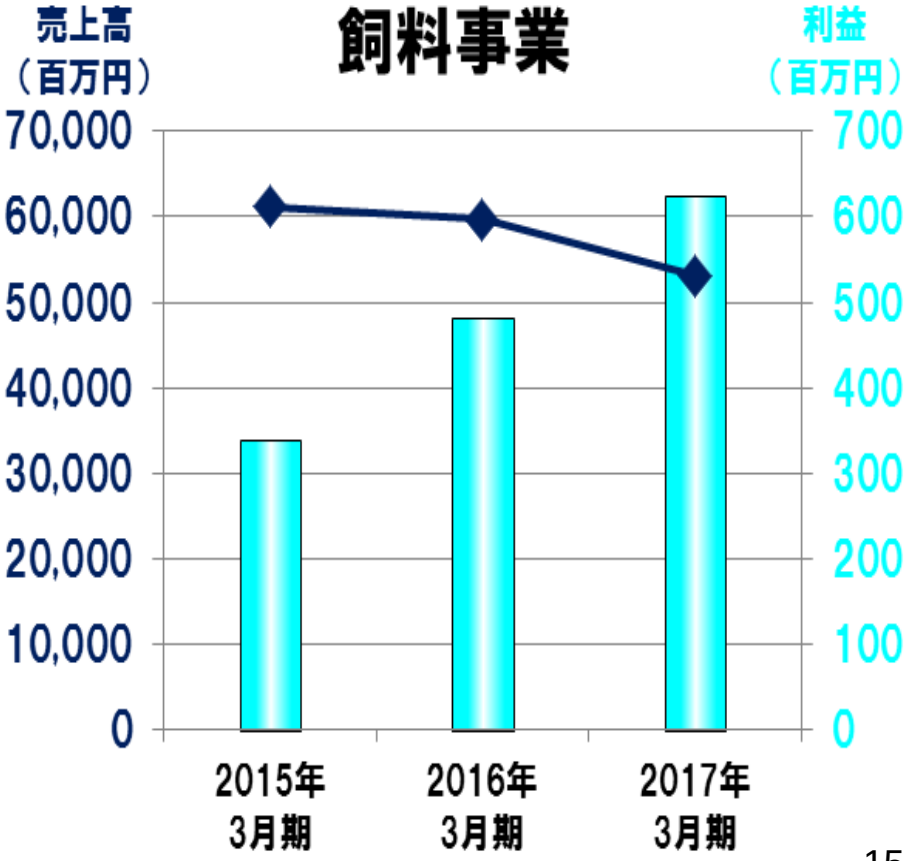
鶏卵の販売支援の取組を強化し、養鶏用飼料の拡販

2．良化ポイント

・鶏卵の販売数量が前期を上回る
・関東・東北での豚用飼料の販売数量が前期を上回る

3．悪化ポイント

・一部受託生産の終了および九州での配合飼料の販売数量が前期を下回る
・原料穀物相場や鶏卵相場の影響を受け、配合飼料や鶏卵の販売価格が前期を下回る



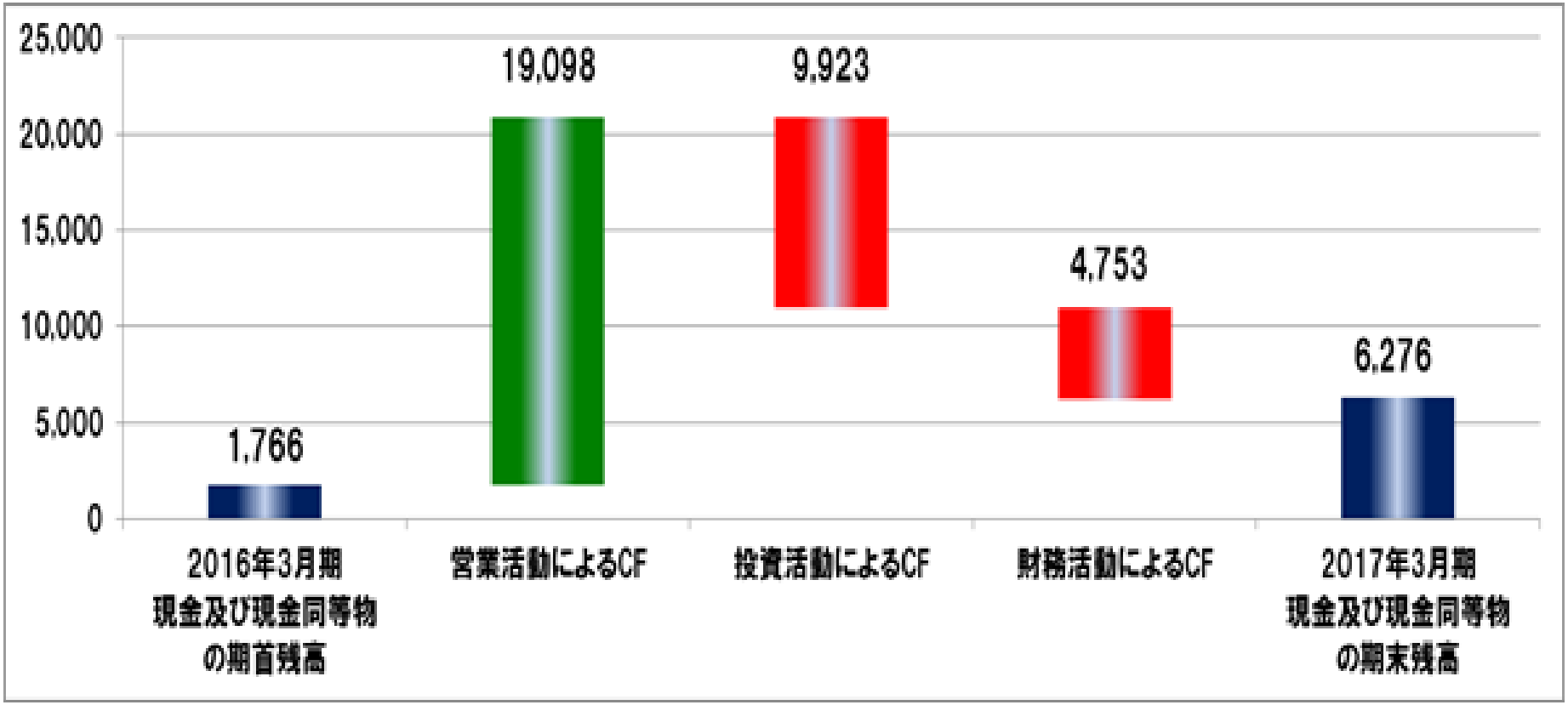
貸借対照表の概要

（百万円）

		2017年 3月末	2016年 3月末	増減	前年度末比
資産	流動資産	70,096	69,605	491	0.7%
	固定資産	94,862	88,335	6,526	7.4%
資産合計		164,959	157,941	7,017	4.4%
負債	うち有利子負債残高	32,571	33,165	△594	△1.8%
		89,591	86,340	3,250	3.8%
純資産		75,368	71,600	3,767	5.3%
負債・純資産合計		164,959	157,941	7,017	4.4%
1株当たり純資産		463.69	430.83	32.86	7.6%
自己資本比率		44.4%	43.6%		0.8%

キャッシュフローの概要

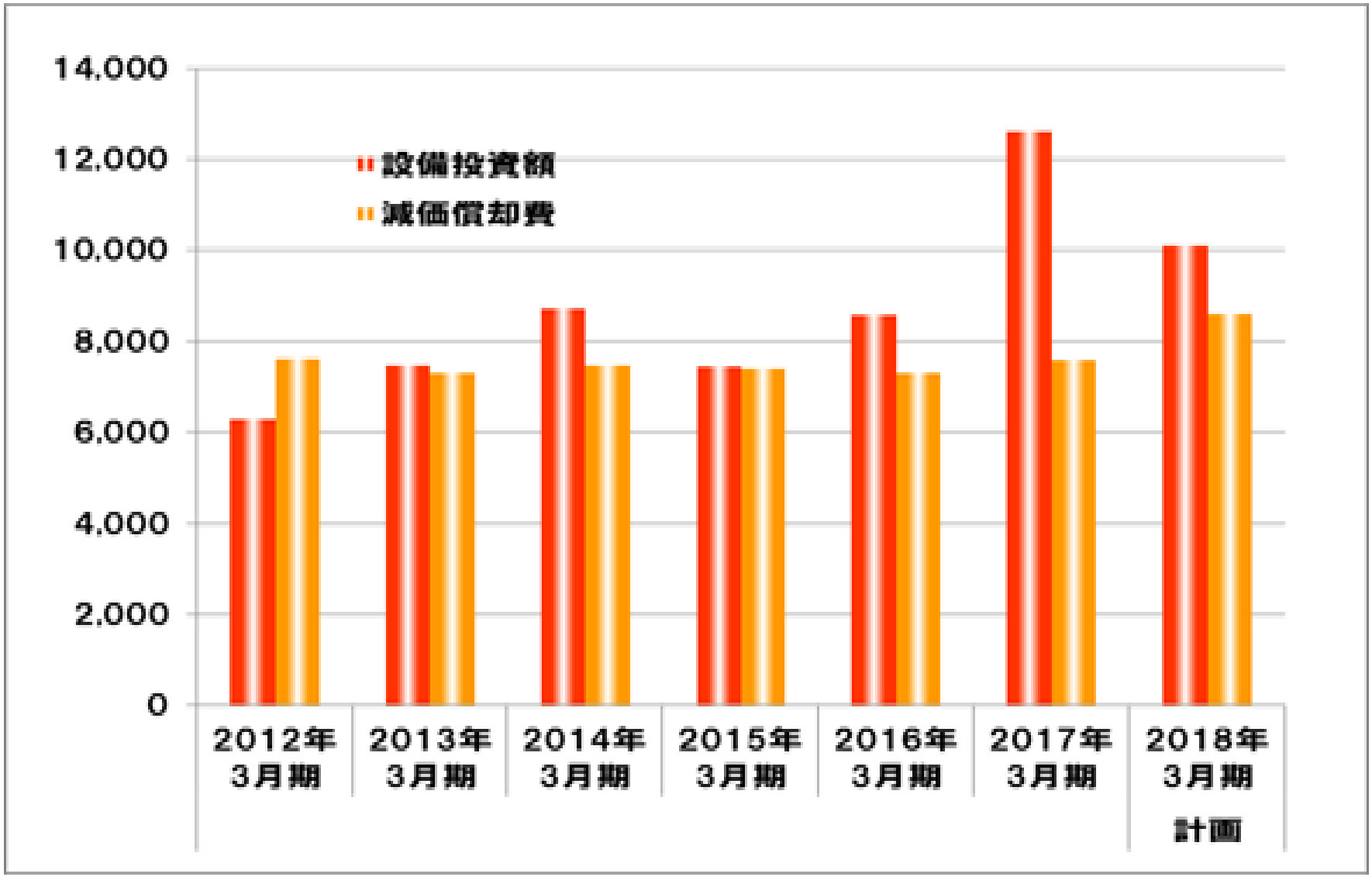
（百万円）



- 営業CF：税金等調整前当期純利益・減価償却費等による資金の増加
- 投資CF：有形固定資産の取得等による支出
- 財務CF：有利子負債の返済等による支出
- 現預金残高：62億76百万円と前期末に比べて45億10百万円の増加

設備投資額・減価償却費の推移

（百万円）



Ⅰ．業績について
2018年3月期業績予想

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

2018年3月期　業績予想

（百万円）

	2018年3月期	2017年3月期	増減	前期比
売上高	243,000	233,206	9,794	4.2%
営業利益	7,600	8,786	△1,186	△13.5%
経常利益	8,300	9,514	△1,214	△12.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,300	6,167	△867	△14.1%

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

2018年3月期　営業施策

営業部	今期の施策
製粉部	グループ総合力を生かした最適な供給体制の確立 価値提案型営業の更なる強化による拡販
油脂部	課題解決型営業の推進及び顧客との取組強化の継続 シナジー効果を生かした食材及び食用油の適正価格による拡販
糖質部	弊社子会社である敷島スターチ株式会社との連携を図り、またデキストリンなど独自製品群の提案とその拡販
食品部	食用油の販売では、近年伸長著しい家庭用オリーブ油市場へ本格参入とギフトセットへの展開 粉類の販売では、お好み焼き粉などのプレミックス類に注力
飼料部	鶏卵を中心とした生産物の販売強化 取引先の増羽・増頭に応えて、飼料販売の拡大 畜産物の研究に注力

Ⅱ．経営計画について

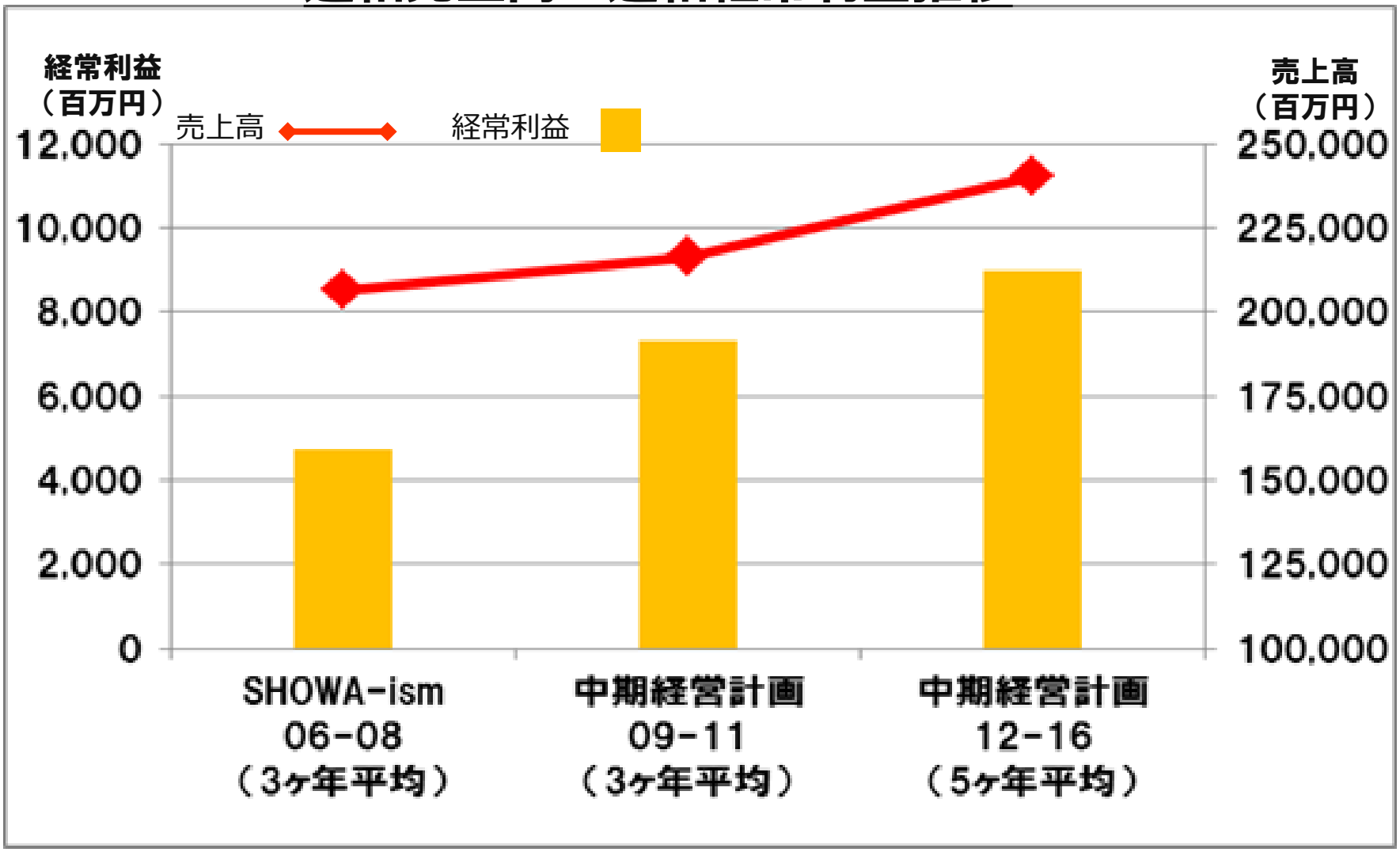
穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

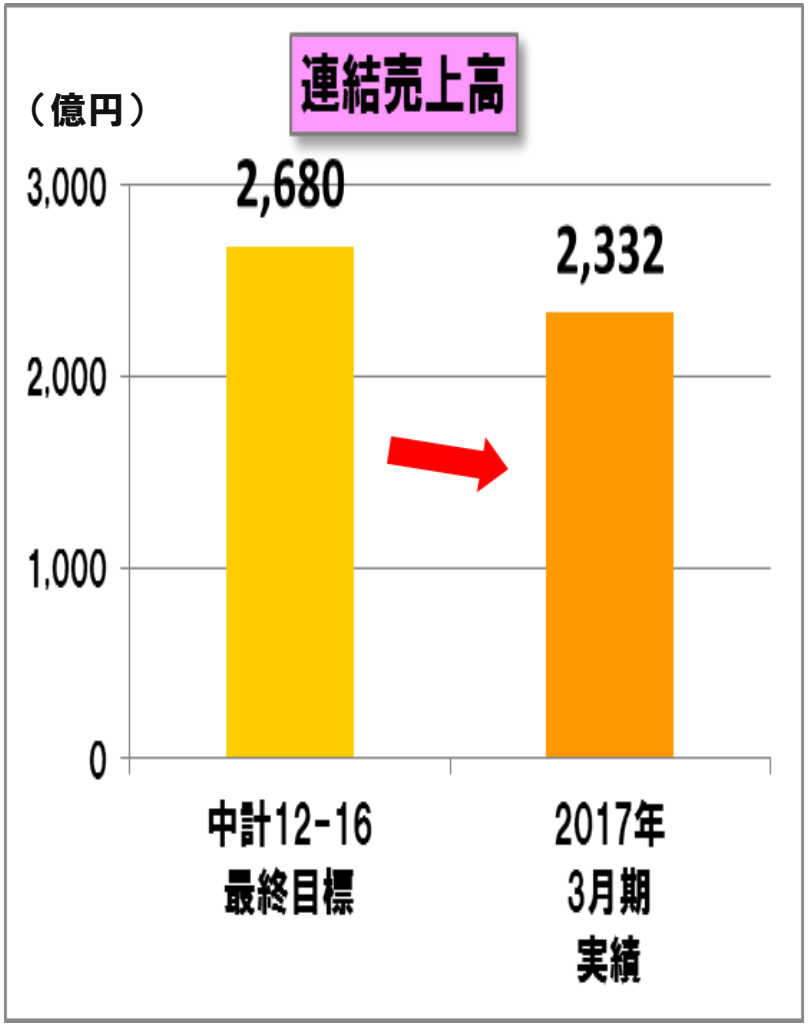
昭和産業

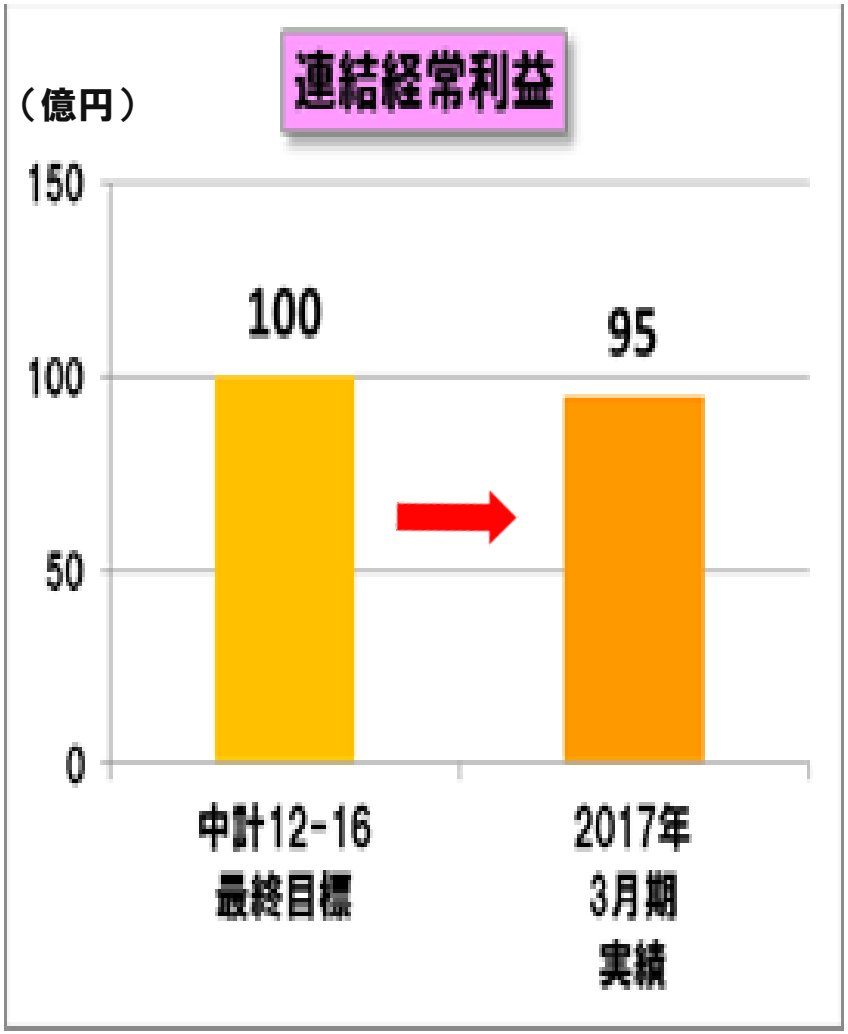
中期経営計画の推移

連結売上高・連結経常利益推移



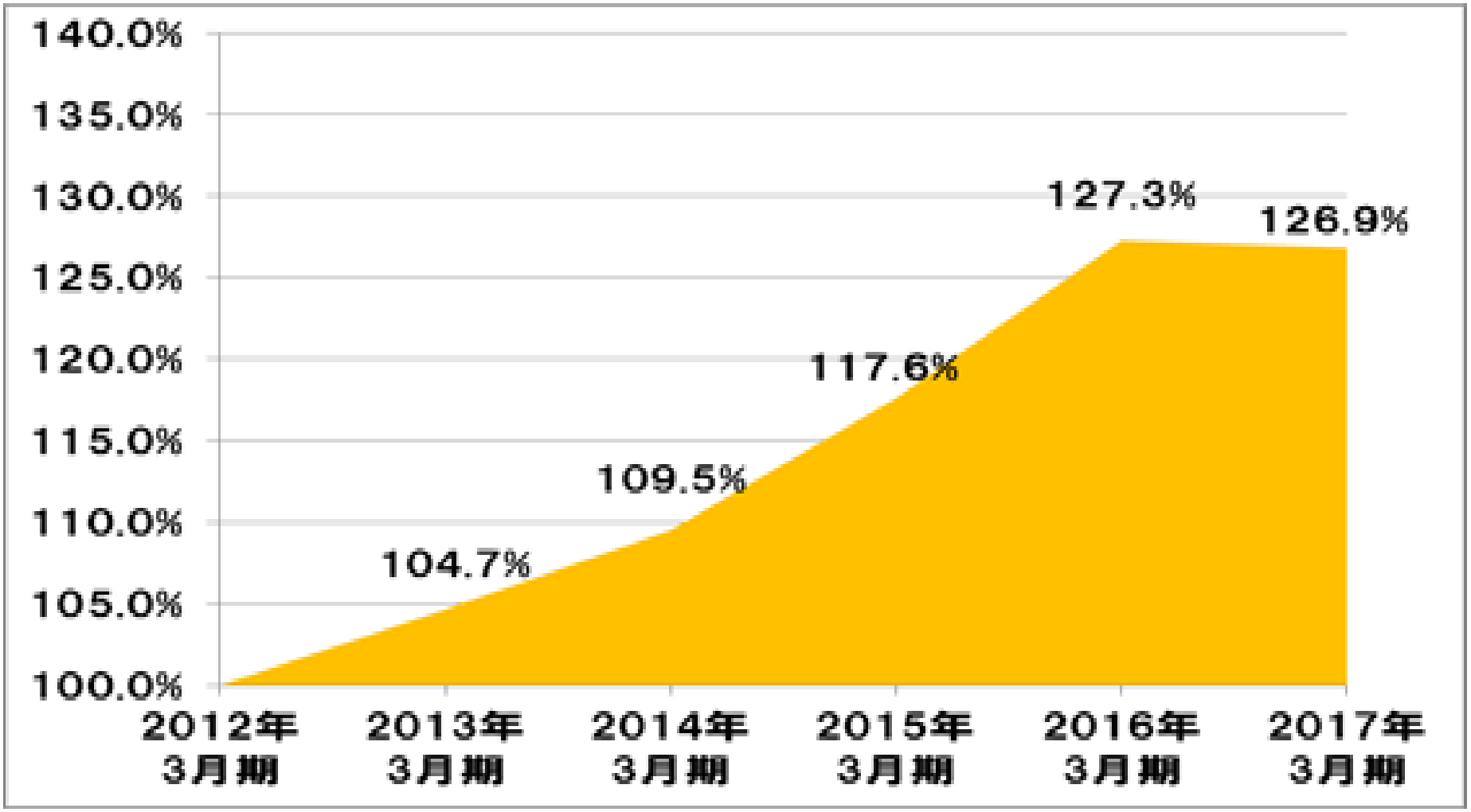
中計目標と実績の対比


連結売上高
（億円）
3,000
2,000
1,000
0
2,680
2,332
中計12-16
最終目標
2017年
3月期
実績


連結経常利益
（億円）
150
100
50
0
100
95
中計12-16
最終目標
2017年
3月期
実績

販売数量の推移

食品関連販売量指数（単体）

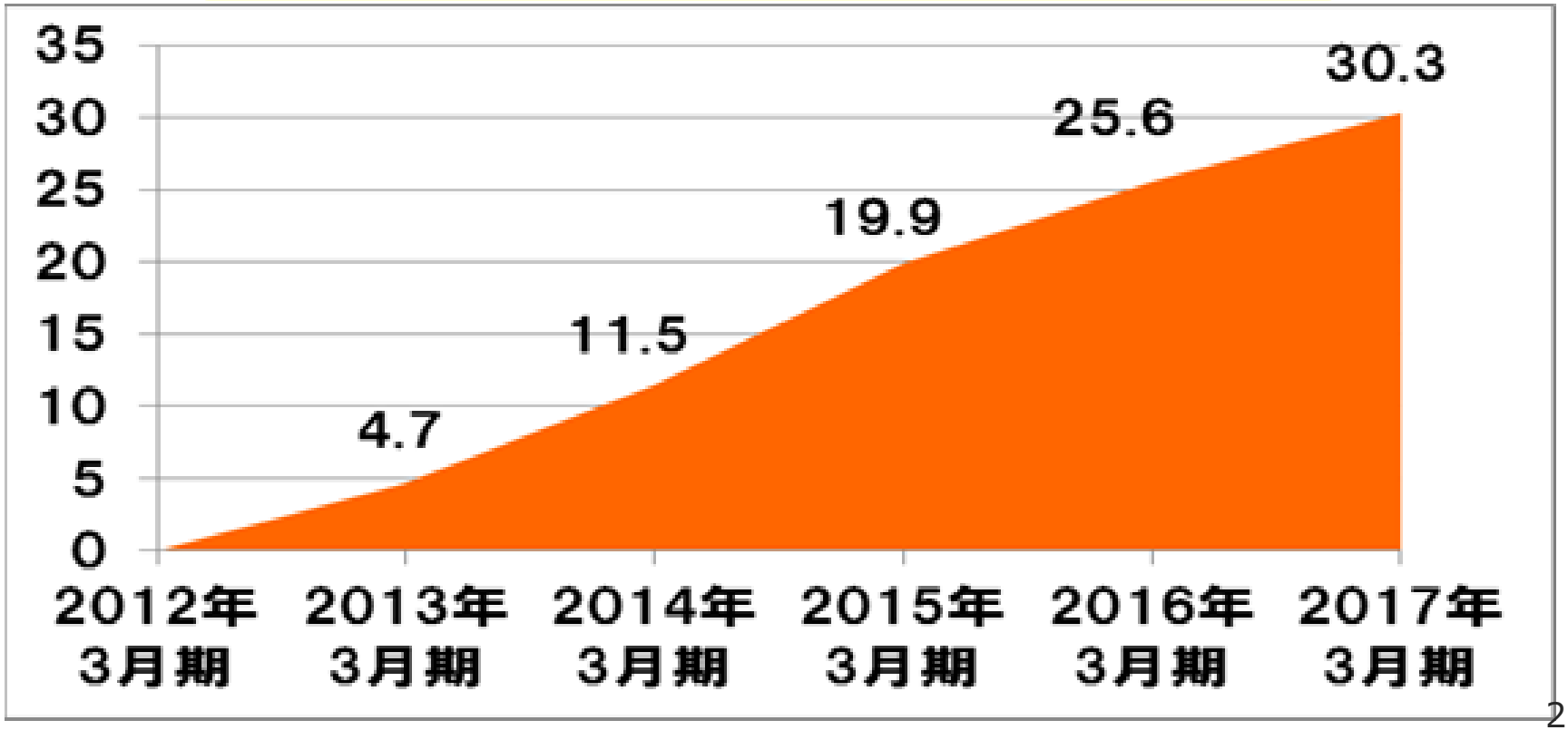


生産部門における効率化の推進

生産コスト改善（鹿島・船橋・神戸工場）

(1)歩留向上 (2)ロス削減 (3)エネルギー効率向上 (4)生産効率向上

２０１２年３月期：ベンチマーク
２０１７年３月期の改善額：約３０億円



穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

将来に向けた施策①

製粉事業

油脂事業

糖質事業

グランソールベーカリー株式会社
冷凍パン生地事業

株式会社スウィングベーカリー
焼成パン事業

株式会社セブン-イレブン・ジャパン様各店舗

一貫したサプライチェーン

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

将来に向けた施策②

ＲＤ＆Ｅセンター　（愛称：SHOW-TECH）

「研究」・「開発」・「技術」の活動拠点を一ヶ所に集約

●複合系シナジーソリューションの
さらなる高度化・スピードアップ
●ユーザーとのコミュニケーションの場を提供

所 在 地：　千葉県船橋市（船橋工場内）
延床面積：　約4,500㎡（4階建て）

- ４Ｆ　化学実験室
- ３Ｆ　事務所
- ２Ｆ　調理試験室
- １Ｆ　接客・会議スペース

長期ビジョン

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

創業者の想い

創業者　：伊藤 英夫

1936年（昭和11年）2月18日設立

旗　　印　：「農産報国」

“食を通じて日本を豊かにしたい”

グループ経営理念
「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」
企業ブランドメッセージ
「穀物ソリューション・カンパニー」

グループ経営計画体系

グループ
経営理念
人々の健康で豊かな食生活に貢献する
ありたい姿
（長期ビジョン）
SHOWA Next Stage for 2025
行動指針
SHOWA魂

ありたい姿（長期ビジョン）の概要

SHOWA Next Stage for 2025

〔ありたい姿〕

全てのステークホルダーに満足を提供する
“穀物ソリューション・カンパニー Next Stage”
～幹を太くし、枝葉を広げ、世の中のためになる果実を育てる～

連結売上高 4,000億円、連結経常利益200億円を目指します

〔方針〕
昭和産業グループならではの複合系シナジーソリューションを進化させると共に、ESG視点での取り組みも強化し、企業価値の向上に努めます。

〔期間〕 2017年度～2025年度（9年間）

※ESG…環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を取ったもので、企業に対する投資判断基準の一つ。

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

行動指針

SHOWA 魂

・一人ひとりが力を発揮し、Next Stageに挑戦します。
・誠実な行動、力の結集、多様性の尊重を掲げて、企業の社会的責任を果たしていきます。

行動指針…グループ経営理念やありたい姿（長期ビジョン）を実現するために
社員が行動する際の心構え

中期経営計画17-19

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業

ありたい姿と中期経営計画の位置付け

ありたい姿（長期ビジョン）
SHOWA Next Stage for 2025

ありたい姿（長期ビジョン）の実現に向け、
中期経営計画を三次にわたり展開

~3rd Stage~

中期経営計画23-25

~2nd Stage~

収　穫

中期経営計画20-22

~1st Stage~

確　立

中期経営計画17-19

現状

ありたい姿に向けた
足場固め

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

中期経営計画17-19の概要

中期経営計画 17-19

〔期間〕　2017年度～2019年度（3年間）

基本方針

“ありたい姿の実現に向けた足場固め”

安定的収益基盤の確立と
更なる成長への準備

基本戦略

- ①基盤事業の強化
- ②事業領域の拡大
- ③社会的課題解決への貢献
- ④プラットフォームの再構築
- ⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

個別戦略【基盤事業の強化】

強化、磨き上げに向けての意思決定と体制構築

〔方向性〕

- コア事業の磨き上げ
  （事業基盤の確立、シェア拡大、事業拡充）
- 顧客価値を掘り起こす独自の事業構造確立
  （潜在ニーズの発掘）
- コアコンピタンスを生かした競争優位性の発揮

個別戦略【事業領域の拡大】

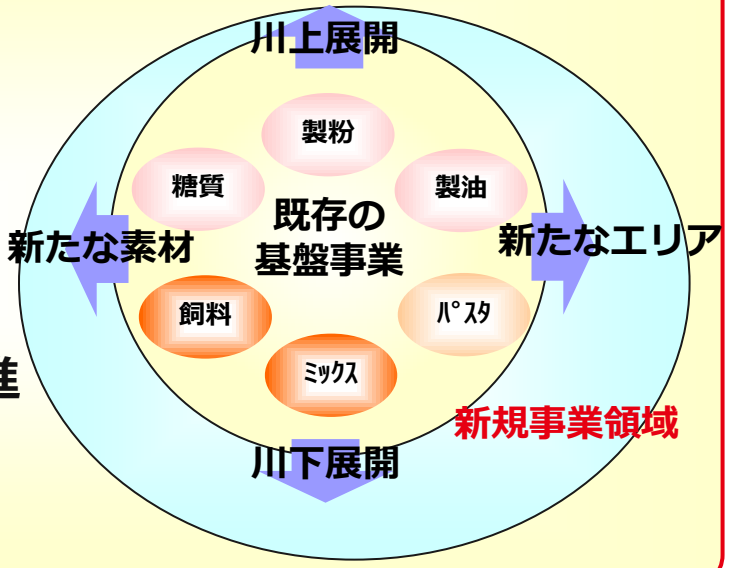
競争優位とシナジーを生かせるセグメント領域の設定

〔背景〕
- 少子高齢化による消費者ニーズ、マーケットの多様化・高度化
- グローバル規模での豊かさの広がり

昭和産業グループにふさわしいセグメント領域の確定

既存の基盤事業と親和性のある分野の見極め

当社グループシナジーの発揮
当社グループならではのバリューチェーン構築
当社グループの独自性を活かした研究開発の推進



個別戦略【社会的課題解決への貢献】

昭和産業グループならではの社会的価値の提供

〔背景〕
ESG経営に対する社会ニーズの高まり（企業と社会の持続可能な発展）

➢健康・環境に関する取り組み
➢安全・安心で高品質な製品の提供
➢地域社会への貢献

事業活動を通した社会への貢献（CSV戦略への発展）

個別戦略【プラットフォームの再構築】【ステークホルダーエンゲージメントの強化】

長期ビジョンの実現に向けて
持続的な企業となるビジネススキームの確立

プラットフォームの再構築

持てる力の発揮と グループ経営の推進

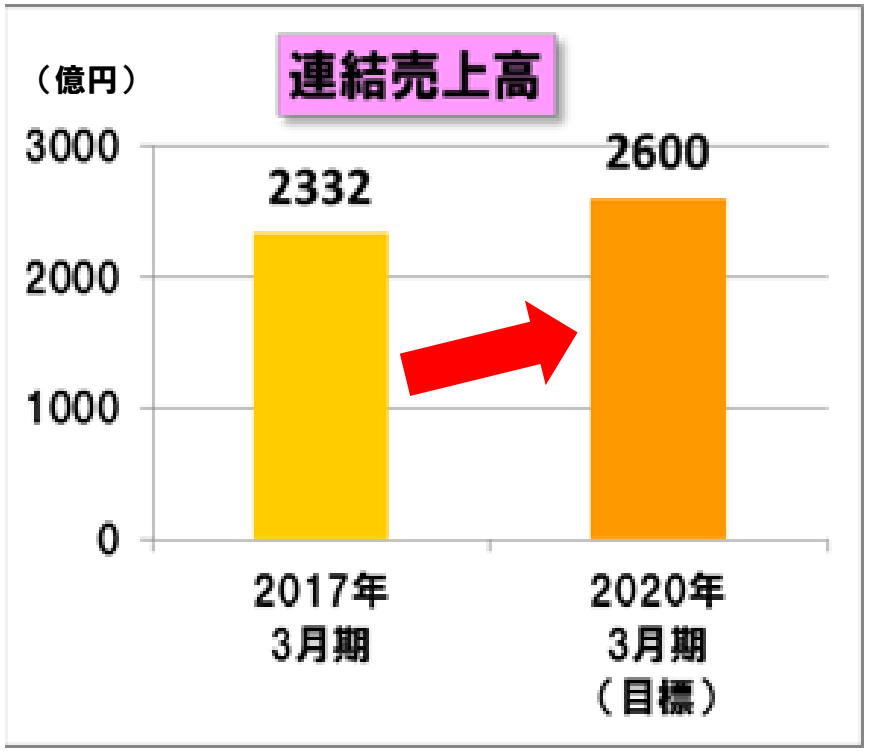
1.グループマネジメントの向上
2.グローバル化・ダイバーシティを推進するための人事戦略の展開
3.グループプラットフォームを強化するIT戦略の推進
4.リスクマネジメント体制の強化

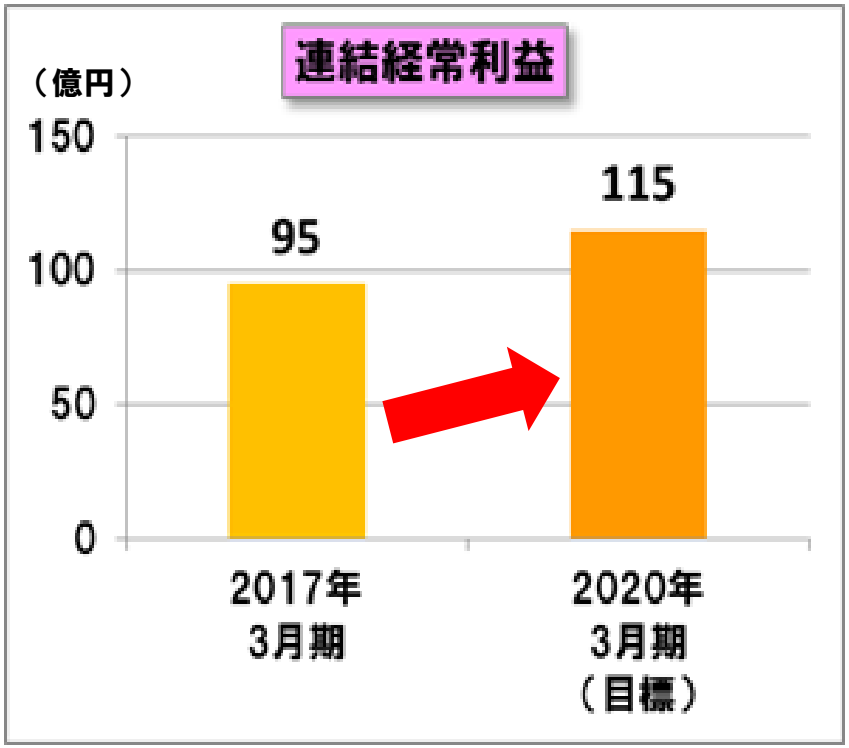
ステークホルダーエンゲージメントの強化

コーポレートコミュニケーション活動を通じたステークホルダーとの信頼関係の確立

1.各ステークホルダーに対応した効果的なコミュニケーションのコンテンツ、手法を選定
2.コーポレートコミュニケーションを通した企業ブランド（SHOWAらしさ）の構築

数値目標（2019年度目標）





ROE	9.0%以上
自己資本比率	50%以上

上記数値目標を達成することにより、収益性の向上、財務体質の強化をはかります

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業

見通しに関する注意事項

本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることから、その 達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。